

内務省 第一三

福島縣外多數ノ廳府縣長官ヨリ 稅
 務監督局 稅務署、大小林区署、鑛山監
 督署又ハ内務省土木出張所ヲ廢シテ其
 事務ヲ地方廳ニ移サレタキ件 別席ノ通
 夫々具申 致来於處 土木出張所ニ付テハ
 事業ノ性質上之ヲ地方廳ニ移スル不可
 能ノコトニ有之 鑛山監督署ニ付テハ此際之
 ヲ廢シテ其事務ヲ農商務本省ノ直轄
 ト為スヲ至當トスヘキヤニ被存於其其他
 ノ事項ニ付テハ制度整理ノ参考迄及
 送付美條可然此處 理相成度此段及
 照會也

大正元年 八月十四日

内務次官床次竹二郎

内閣書記官長南弘殿



追テ富山縣知事ヨリ鑛山監督署林區署稅務監督局稅務署ノ外監獄ヲ七府縣ニ合併セラレタキ旨希望申出矣ハ左方ハ今日ノ處到底採用セラルヘキモノニ無之ト存於右内旨マテニ申添矣

一 稅務監督局及稅務署ノ廢シ其事務ヲ地方廳ニ移ス件 (福島縣)

理由

稅務監督局及稅務署ハ内國稅ニ関スル事務ヲ監督シ及執行スルカ為メ設ケラレタル機關ナリト雖モ是等事務ノ為メ特別ニ機關ヲ設ケ置クカ如キハ國家財政上不利益ナルノミナラス其事務タルヤ徵稅ノ一点ニ止マルヲ以テ往々民間經濟ノ如何ヲ顧ミス為メニ地方產業ノ發展ニ影響ヲ及ホスコト少トセズ今之ヲ地方廳ノ所管ニ移スニ於テハ常ニ民間經濟ノ狀態ニ注意シアルヲ以テ克ク其負担力

ヲ考查シ適當ノ課税ヲナスヘキヲ以テ最モ圓滿成績
ヲ舉ゲ得ヘキヲ信ス若シ夫レ之カ爲メ收入ノ減少ヲ来ス
ニ於テハ現今ノ課率ヲ相當増額スルモ尚現今ノ
状況ニ優レルヲ認ム

一 稅務監督局ヲ廢シ其ノ事務ヲ縣ニ移シ稅務
署ヲ廢シ其ノ事務ヲ郡役所ニ移サレタシ

(群馬縣)

理由

同一ノ事務ハ可成之ヲ共通的ニ執行スルトキハ徵
稅費ヲ減シ且國縣稅共同時ニ整理スルコ
トヲ得ヘシト認ムルニ由ル

一 國稅ノ圓滿ナル徵收ト其ノ増加ヲ計ラントスレハ稅源
ノ涵養ニ俟タサルヘカラス然ルニ内國稅ニ關スル事
務ハ地方ニ於テハ稅務監督局並ニ稅務署ノ取
扱ヲ所ナレトモ其ノ稅源タル各種ノ商業、發達
ヲ計リ又ハ酒釀造酒精醬油製造業等、
如キ其ノ指導獎勵ハ皆地方廳ノ力ニ俟ツ處
最モ多キヲ以テ國稅ニ關スル事務モ併セテ地
方廳ヲシテ行ハシムレハ一方ニ於テハ益稅源ノ
涵養ト増加トヲ計ルコトヲ得ヘク他方ニ於テハ之カ
圓滿ナル徵收ヲ執行スルコトヲ得ヘシ

二 現今ノ制度ニ於テ内國稅中、直接國稅徵
收ハ市町村ノ事務ナルヲ以テ之ヲ監督スル地

方廳ヲシテ賦課並、監督事務ヲ取扱ハシムルハ最
モ便利ナリ又地方税市町村税ノ大半ハ國税ノ
附加税ナルヲ以テ税制統一上ヨリ云フモ國税ニ関
スル事務ヲ行ハシムルヲ便利トス
三之ヲ機關ノ上ヨリ云フモ現在ノ稅務監督局ヲ廢シ
テ地方廳、財務部ヲ置キ稅務署ヲ廢シテ
支廳ニ其ノ事務ヲ合併スルトキハ經費ニ於テ
現今ノ二割以上ヲ減スルコトヲ得ヘシ

(北海道廳)

一稅務監督局及稅務署ヲ廢シテ稅務ニ関
スル事務ヲ地方廳ノ管轄ニ移スユト適當ナ
リト認ム (靜岡縣)

一國稅徵收ニ関スル一切ノ事務ヲ地方長官ノ権限ニ
移シ稅制ノ統一ヲ期スルコト (滋賀縣)

理由

國稅ニ関スル事務ハ往幸地方長官ノ権限ニ屬
シタルモ其ノ後之ヲ大藏大臣ノ直轄ニ屬セラレ別
々各地方ニ特別ノ官衙ヲ置キ以テ府縣郡市
町村ニ於ケル地方費ノ徵稅事務ト全然分離ス
ルコトナリシモ右ハ旧ノ如ク之ヲ地方長官ノ権限
ニ移シ以テ稅制ノ統一ヲ圖ルハ現下ノ狀況ニ照シ最
必要ノ事ト信ス殊ニ前項ノ如ク一般ノ地方稅ヲ廢
止スルニ於テハ國稅徵收ノ事務ヲ全然地方

廳ニ移スモ之レカ為メ著シク地方ノ事務ヲ繁雜ナラシムル虞ナキノミナラズ若シ間接税ノ徵收事務ニシテ特殊ノ技能ヲ要スルニ於テハ警察署同様今日ノ稅務署ヲ其終存置シテ之ヲ地方長官ノ下級官廳ト為スモ可ナルハ然カモ之カ為人稅務監督局ヲ廢止スルコトヲ得ヘキカ故ニ行政整理ヲ期スル上下於テモ亦最モ緊要ナル施設ト認メラル

一大小林區署ヲ廢シ其ノ事務ヲ府縣ニ移ス件

(福島縣)

理由

古來山林制度ニ於テハ地方村民ハ赫、柴草ノ採收若クハ放牧等使用收益ノ特權ヲ與ヘラレタルト共ニ一面ニハ爰林保護ノ義務ヲ負擔シ未リタリシカ一朝林區制度ノ設置ト其ニ此等ノ關係緣故ハ殆ト斷絶シ林區署ニ於テ林野產物ノ拂下ヲ為スニ當リ往々地方ノ產業及需要關係ヲ輕視シ專ラ理想的ノ施業法ヲ遂行セント欲スルノ傾キアルノミナラス不要存置林野ノ整理處分ニ付キテモ兎角豫定計劃ノ遂行ニ重キヲ置キテ地方

九